家族性高カイロミクロン血症患者の検査成績
血 清 脂 質

	調整粉乳摂取中	無脂肪粉*乳摂取中
コレステロール (mg/dl)	630	263
中 性 脂 肪 (mg/dl)	8,000	273
燐 脂 質 (mg/dl)	213	194
遊 離 脂 酸 (μEq/L)	326	490

*試作乳 810 (明治)

がわずかに認められた。

検査所見では血清を24時間保存することによりクリーム層と透明層に分離した。患児の血清脂質は高値を示し，とくに中性脂肪は著しい高値を示し，コレステロールも高値であった。Disc 電気泳動によるリポ蛋白の分析ではカイロミクロンが主で，α，β リポ蛋白は痕跡であった。患児の血漿リポプロティンリパーゼ活性は10分値で正常対照の1/7を示し著しい低値であった。

血漿リポプロテインリパーゼ活性
μ mole FFA/ml/mim.
久城らの方法
ヘパリン 0.1 mg/kg 静注
イントラリピドのエマルジョンを基質とする

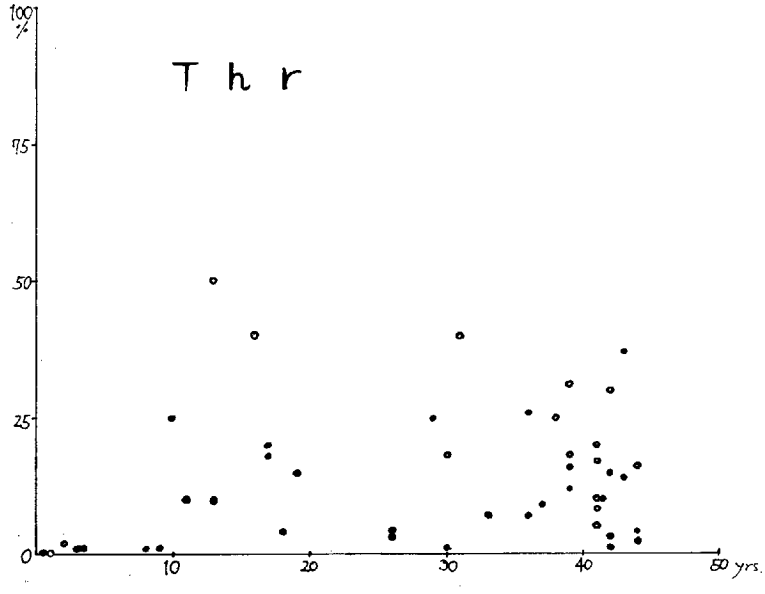
	患 者	対 照	正常値(久城ら)
0 分 値	0	0	0
10 分 値	0.025	0.145	0.196±0.030
20 分 値	0.030	0.113	0.149±0.030
30 分 値	0.030	0.106	0.101±0.017

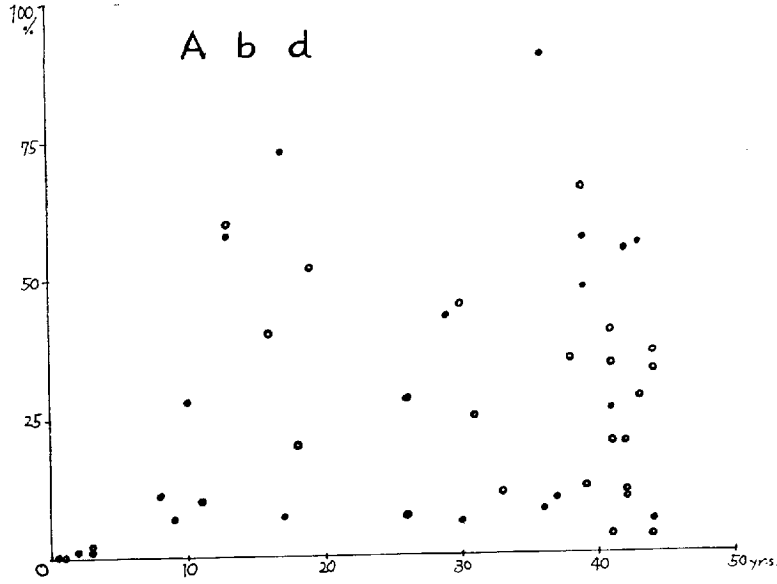
患児に脱脂乳を与えた結果血清脂質，電気泳動像ともに正常化した。両親，親族のリポ蛋白リパーゼ活性さらに患児，ヘテロのその他のエステラーゼ活性については今後検索の予定である。

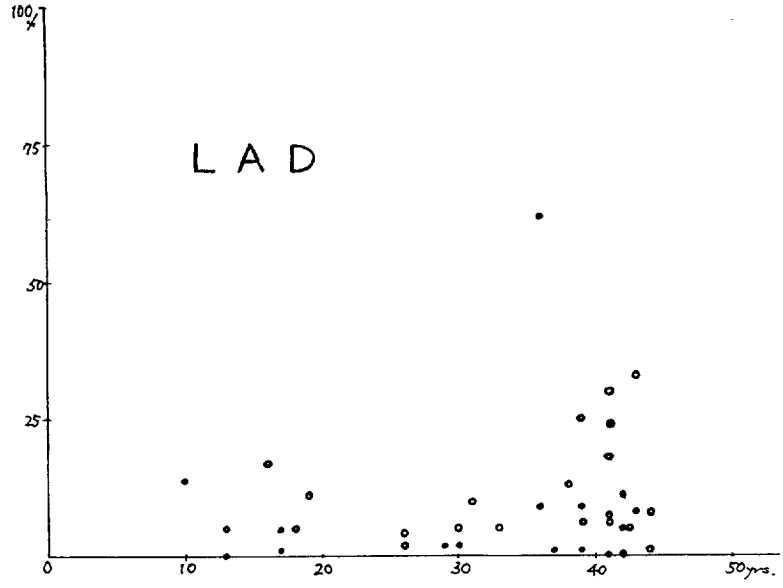
小児若年者の大動脈および冠状動脈硬化度の年令的推移ならびに硬化度に関する国際比較

慶応大学病理 細 田 泰 弘
石 井 寿 晴

私共は，1977年来，幼・小年期，青年期，若年期（0～44才）の日本人若年層の大動脈，冠状動脈硬化度の年令的推移，並びに硬化度に関する国際比較研究を続行し，現在120例を蒐集している。最終蒐集目標数は200例であ



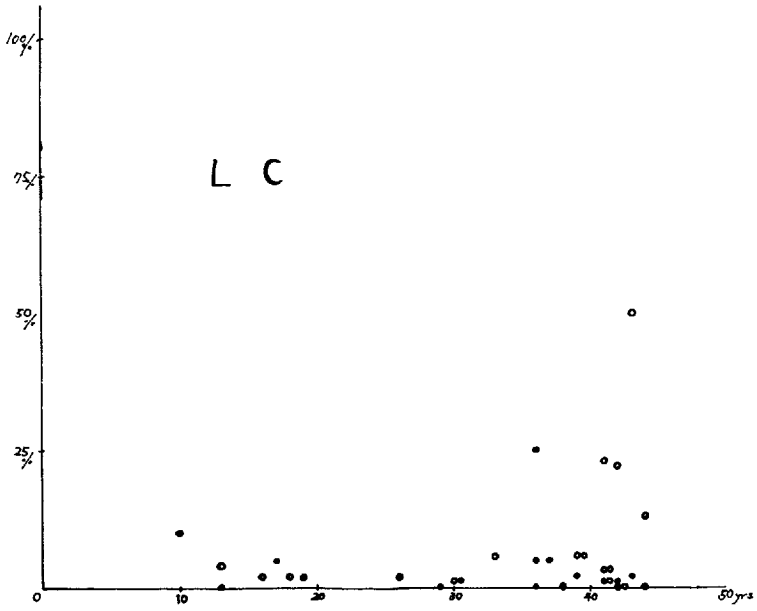


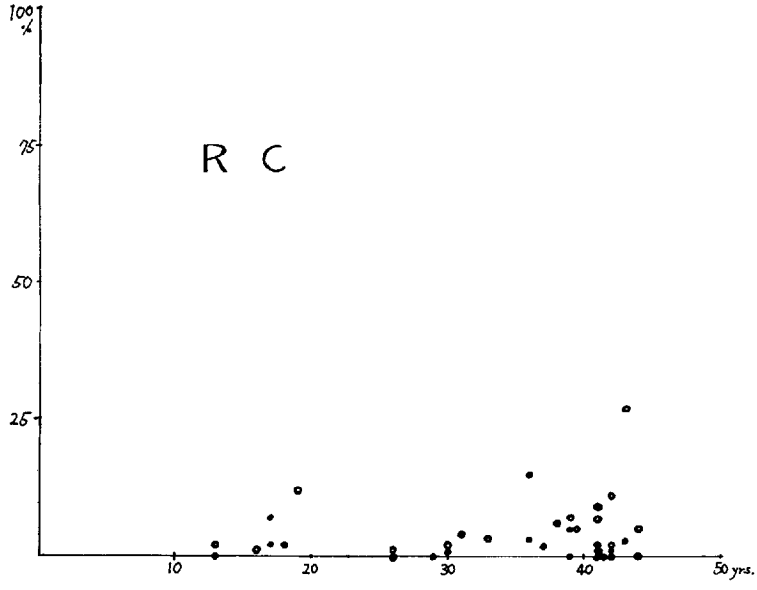


り，これまでの経緯からすると，来年度までには，一応その目標には達するものと考えている。

一方，国際比較の進歩状況については，スウェーデン，Sternby，NH 教授も，同様の対象を目下蒐集中であり，日本人動脈硬化度は，軽度である印象を受けるとの私信を得ているが，詳細は，さらに時間をかけて，検討が必要であろう。さらに Sternby 教授らは，私共も含めて，日端比較の他に，米国，スイス，イスラエル，ケニア，ドイツの各国についても，同様の研究がなされるべきであると主張し，私共の現在遂行中の計画よりも，多角的検討が可能となろうとの，私信が届けられた。現在，私共は，この点についても，関心を持って，その推移を見守っている状況である。

私共の計画は，動脈硬化度の百分率表示を臨床化学測





定値，血圧，体格，原疾患，他の病理所見などの多数の項目をもとに，多変量解析を試みようと考えているが，これには，症例を完全に蒐集し得ないと，電算機用パンチカード作製，電算機使用などに関する費用の点など，問題があるので，53年度の報告は，現在まで，測定した60例の動脈硬化度分布をもって，中間報告としたい。

図中の Thr, Abd, LAD, LC, RC はそれぞれ，胸部大動脈，腹部大動脈，左冠状動脈前室間枝，左冠状動脈回旋枝，右冠状動脈回旋枝を示す。今回の数値は，fatty streak, fibrous plaque, Complicated lesion, calcification の各々の総和，即ち，総動脈硬化度として表わしてある。白丸は男性，黒丸は女性を示す。

現時点では，

①大動脈の方が，冠状動脈より，動脈硬化度が高い。

②肉眼的に同定できる動脈硬化性病変は，10才頃より目立ってくる。
③男性の方が，女性より高い可能性がある。
これらの諸点が，示唆されるが，症例数が少なく，統計的処理に未だ足るものとはいえず，今回の報告では，これらの点が示唆されたにすぎないということを留意する必要がある。

I. Epilepsy 患児の血清総コレステロール値
II. 小腸静脈・大静脈吻合術によって小康を得ている家族性高脂血症の1例

九大小児科　本　田　　悳
細　山　田　隆

I. Epilepsy 患児の血清総コレステロール値

1. 対象および方法

昭和53年1月より同年12月までに九大小児科を受診した Epilepsy 患児のうち，薬物血中濃度測定ならびに一般状態経過観察のために採血を行なった516例の血清を利用し，SMA-12/60 を使用して総コレステロール値を測定した。516例全例に GOT，GPT，総ビリルビン，LDH の異常は認められなかった。

対象の年令分布は表1に示すとおりである。

2. 結果および考按

各年令群における男児および女児それぞれの血清総コレステロール値の平均と標準偏差を表2および図1に示した。

1才未満および1才から3才未満群で女児が男児より高値を示し，幼児期後半から学童期にかけて浅い谷を形成するが，各年令群間ならびに男女間に推計学的有意差は認められなかった。516例の総コレステロール値は176±28 mg/dl であった。

正常小児の血清総コレステロール値は未だ確定していないが，我々の持つ正常群のコレステロール値と，今回の値との間に明らかな有意差はないが，全年令群とも，epilepsy 患児でやや高値を示す傾向が認められた。但し，我々の正常例は各年令群の検討例数が少数であるため，今後正常群の測定値を増す必要がある。

他施設からの血清コレステロール値との比較は，測定法，精度などの点から単純比較が不可能であるが，今回の数値は全般的に高値を示しており，中学生以降の年令

表-1 MATERIAL

age group (y.)	<1	1-<3	3-<6	6-<9	9-<12	12-<15	15-	total
male	15	21	34	66	52	28	31	247
female	19	20	61	53	44	45	27	269
total	34	41	95	119	96	73	58	516

表-2 Total Cholesterol in Epilepsy

age group	<1 y	1～<3 y	3～<6 y	6～<9 y	9～<12 y	12～<15 y	15 y ≦
male	172.0 ±24.8	180.1 ±23.6	179.6 ±39.8	170.8 ±28.7	179.6 ±36.4	179.3 ±28.8	169.2 ±24.7
female	169.6 ±25.5	179.0 ±38.4	173.7 ±26.8	187.0 ±33.2	191.3 ±33.6	174.2 ±33.0	172.8 ±27.6

検索用テキスト　OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

私共は,1977 年来,幼・小年期,青年期,若年期(0～44 才)の日本人若年層の大動脈,冠状動脈硬化度の年令的推移,並びに硬化度に関する国際比較研究を続行し,現在 120 例を蒐集している。